

営業の概況

■経済情勢

当中間期におけるわが国経済は、牽引役であった輸出の増勢の鈍化、エネルギーや原材料価格の高騰による企業収益の悪化、米国サブプライムローン問題の波及による世界景気の減速等により停滞しております。

輸出は世界経済の減速により増勢が鈍化し、設備投資は厳しい経済環境を反映して一服傾向にあります。個人消費は、雇用者所得の伸び悩みや物価上昇を受けて低調に推移しております。住宅投資は、平成19年6月の改正建築基準法施行の影響で大きく落ち込み、回復への動きが見られるものの、なお低水準となっております。

以上のような内外需要環境の下、生産活動は弱めの動きとなっております。

■当行の業績

当行は「安心、先進、そして前進」をキーワードに、地域起こしとしてのニュービジネス総合応援制度、セキュリティ重視のICカードの発行等、新商品の開発、店舗網の拡大などを進め、地域との共生を目指しております。

ニュービジネス総合応援制度につきましては、「ニュービジネス助成金」、「コンソーシアム研究開発助成金」の2つの助成金制度への応募累計は、1000件を超えました。地元大学との産学連携の拡大を進め、新たに大阪府立大学、大阪市立大学と産学連携基本協定を締結いたしました。

また、全国で初めて、1台で「手のひら静脈認証」と「指静脈認証」の両方式に対応した新型ATMを導入し、サービスを開始いたしました。今後も、生体認証を活用した本人確認方法をはじめとして、一層のセキュリティ向上と利便性の確保に努めてまいります。

さらに商品につきましては、多様化する資産運用ニーズにお応えするために、阪神間唯一の独立系地方銀行の立場を生かし、バラエティに富んだ保険商品、投資信託を取り揃えております。

以上の結果、株主の皆さま及びお取引先の皆さまのご支援のもと、次のような業績をおさめることができました。

預金

個人預金を中心に年間354億円増加し、総預金の中間期末残高は、2兆2,418億円となりました。

貸出金

事業性貸出を中心に順調に推移し、総貸出金の中間期末残高は年間962億円増加して、1兆6,187億円となりました。

有価証券

市場混乱の中、有価証券運用はリスクヘッジを心掛け、30％ルールに則り減損処理も行ったことから、中間期末残高は、年間2,590億円減少して、6,404億円となりました。

損益

本業の預金、貸出金、預かり資産残高は順調に推移しておりますが、米国での金融不安を契機に、世界の金融市場は大混乱となったことから、当行の保有する有価証券にも少なからず評価損が発生しました。従来から、最も厳格ないわゆる「30％ルール」にて減損処理を行った結果、誠に遺憾ながら15億円の中間純損失を計上するに至りました。

配当

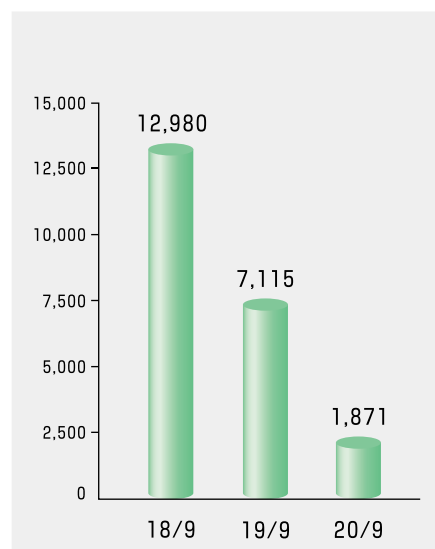
期初の計画通り、期末に普通配当65円を予定しております。

■今後の課題

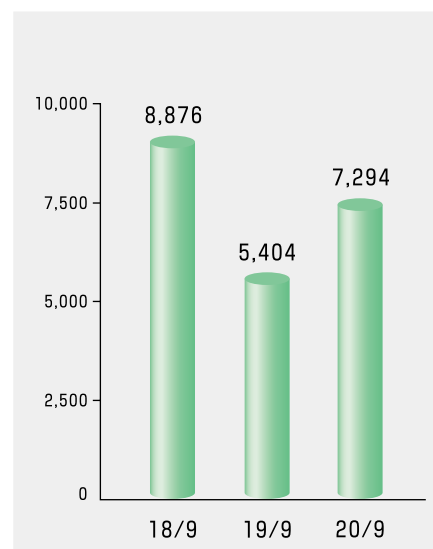
昨年来の米国での金融不安に加え、世界的な景気後退により、金融市場は未曾有の大混乱となり、保有有価証券の評価が下落いたしました。

6月にはリスク管理体制強化の一環として統合リスク管理室を設置、金融経済情勢並びに市況の変動を慎重に検討しながら、早め早めに対応することに努めてまいります。何卒、引き続き格別のご愛顧とご支援を賜りますよう、よろしく申し上げます。

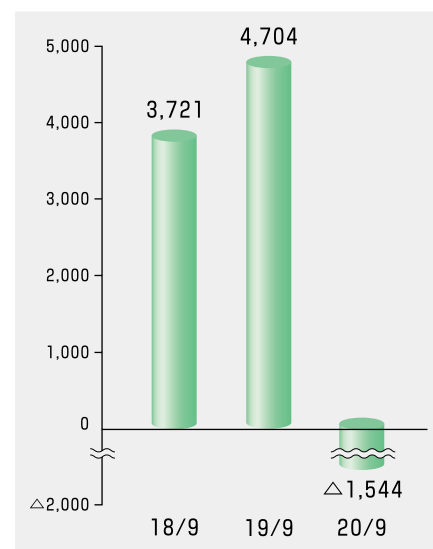
業務純益 (単位:百万円)



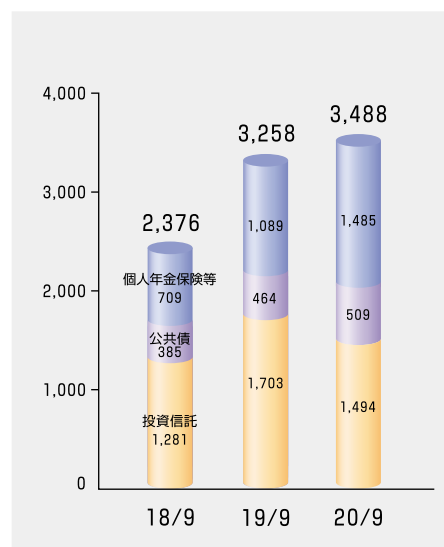
コア業務純益 (単位:百万円)



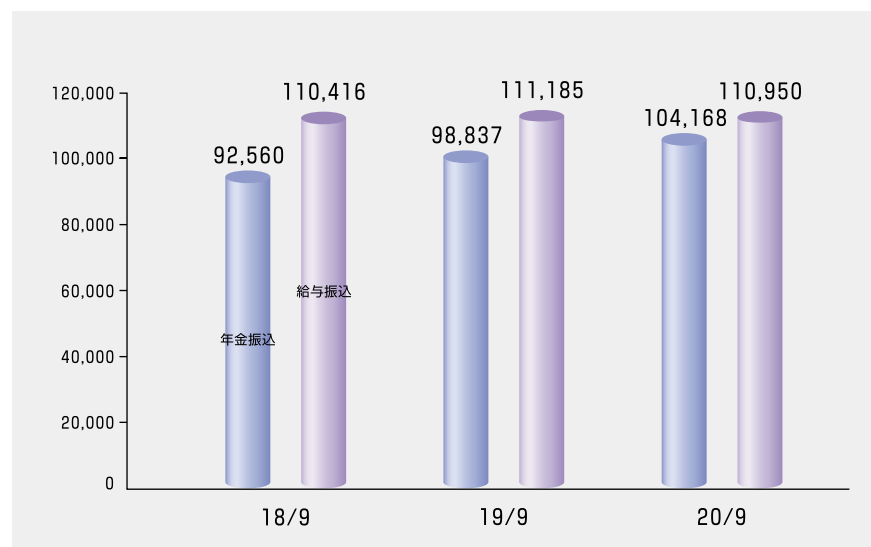
中間純利益 (単位:百万円)



預かり資産 (単位:億円)

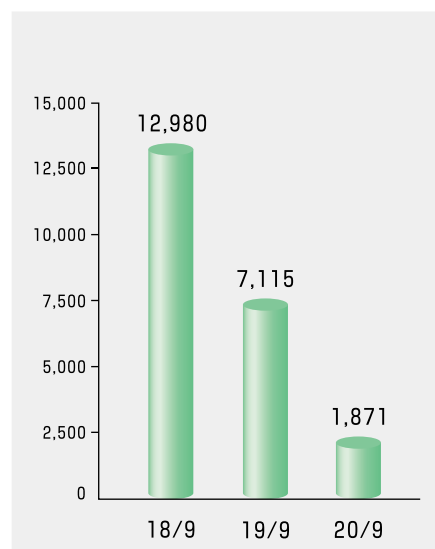


年金振込・給与振込 (単位:件)

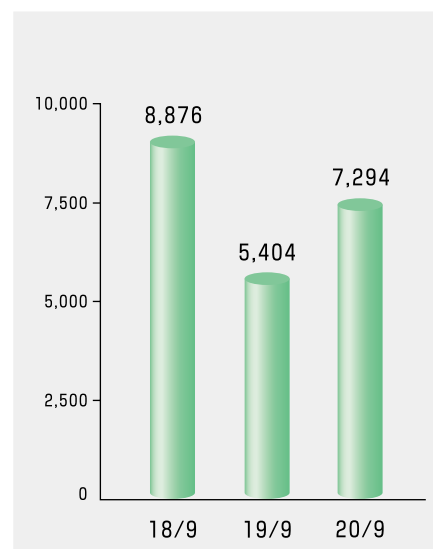


※個人年金保険等は、販売累計額を計上しております。

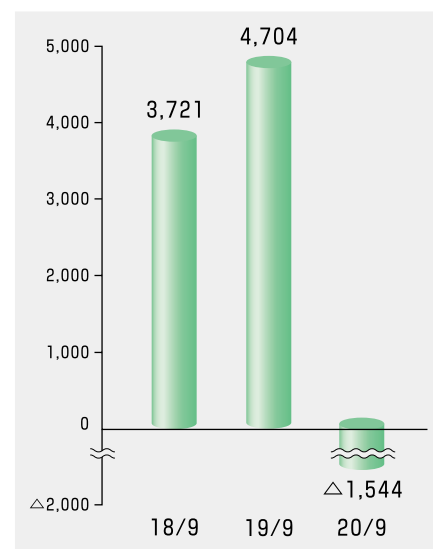
業務純益 (単位:百万円)



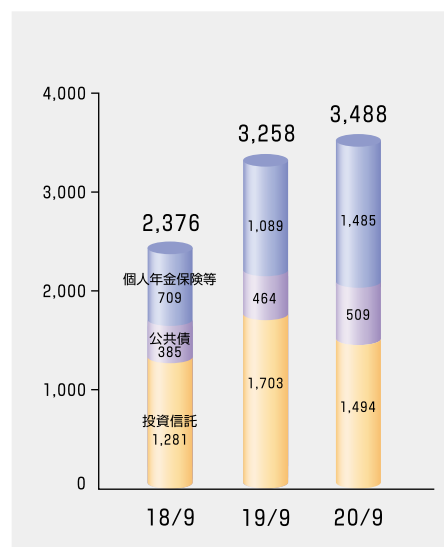
コア業務純益 (単位:百万円)



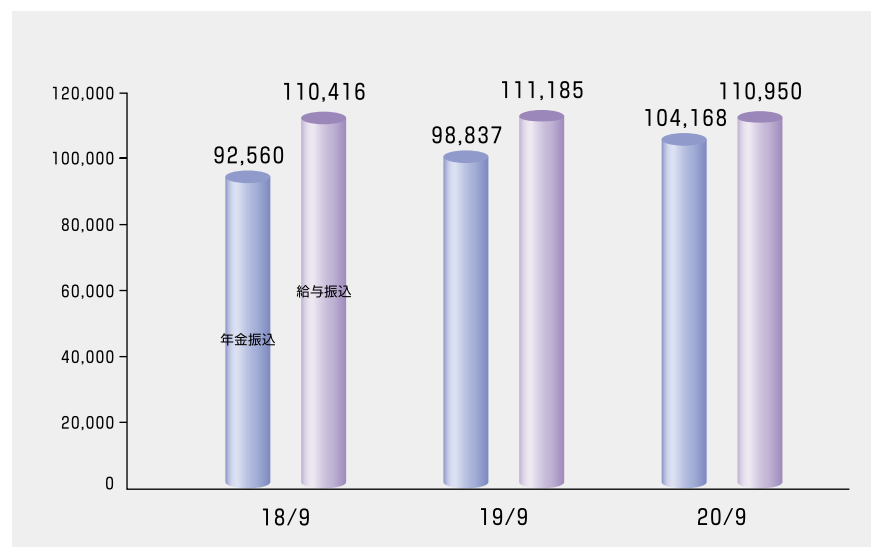
中間純利益 (単位:百万円)



預かり資産 (単位:億円)

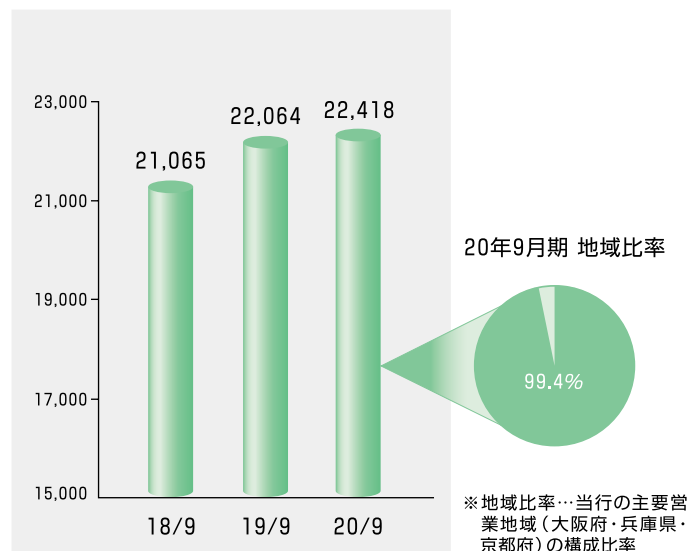


年金振込・給与振込 (単位:件)

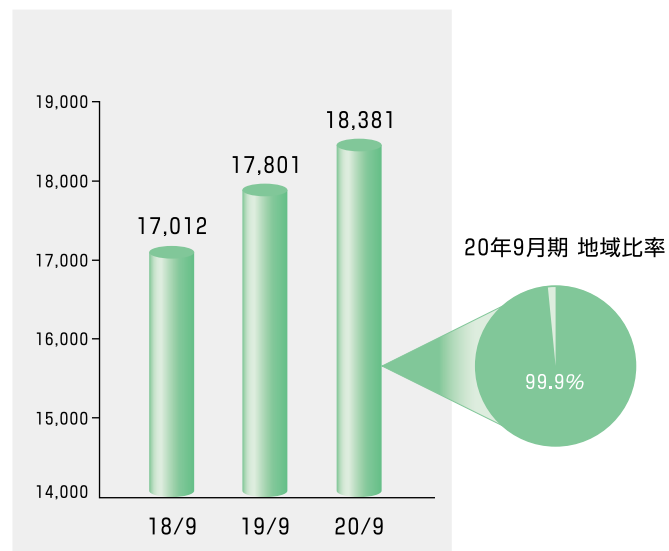


※個人年金保険等は、販売累計額を計上しております。

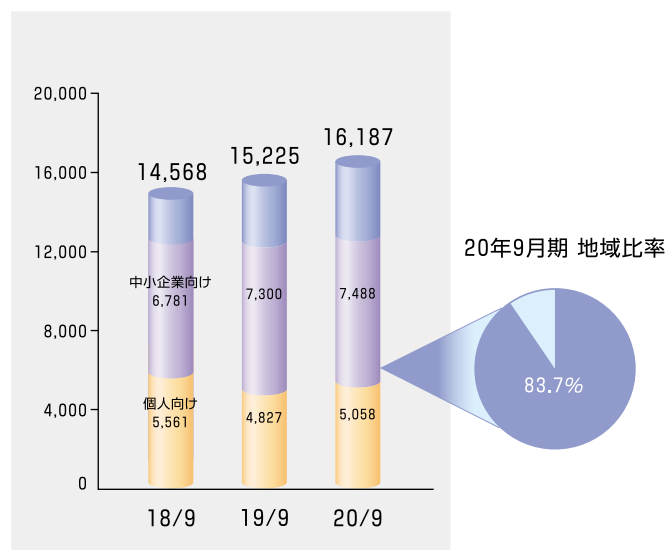
預金残高 (単位:億円)



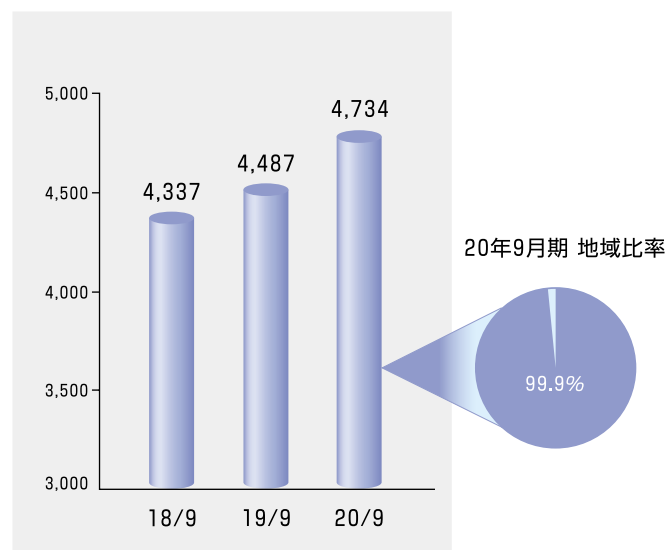
個人預金 (単位:億円)



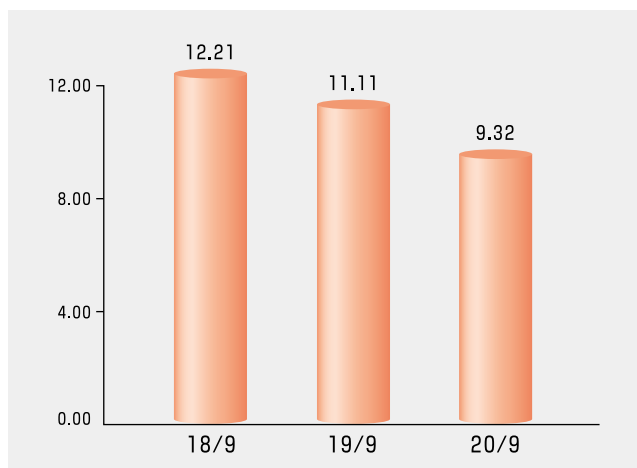
貸出金残高 (単位:億円)



住宅ローン (単位:億円)



自己資本比率（国内基準・単体）（単位：％）



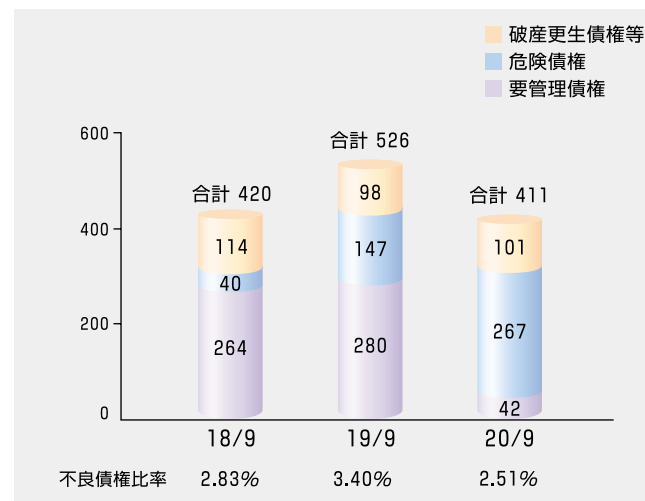
※自己資本比率の計算方式（国内基準）

$$\frac{\text{基本的項目} + \text{補完的項目}}{\text{リスクアセット（信用リスク度合いを考慮した資産額）}} \times 100$$

（資本金、剰余金等） （一般貸倒引当金、劣後ローン等）

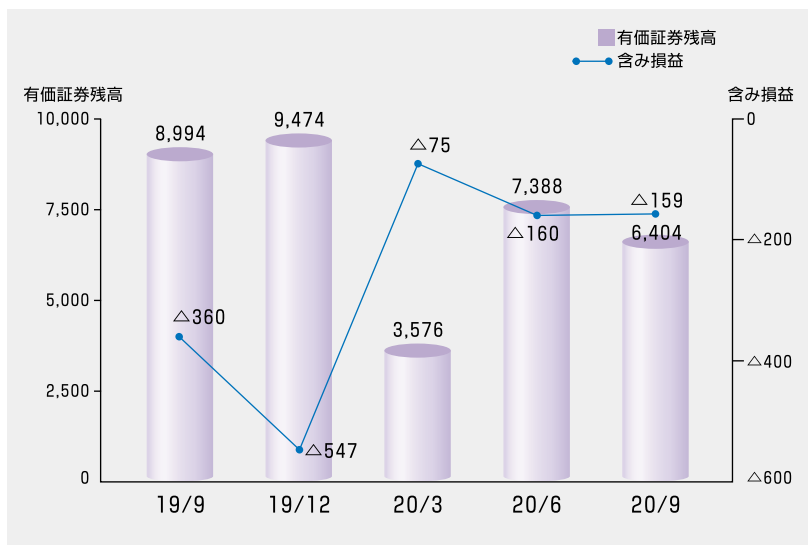
資産の健全化について（単位：億円）

金融再生法に基づく債権の開示



不良債権比率 2.83% 3.40% 2.51%

有価証券の状況（残高・含み損益）（単位：億円）



平成20年9月期の保全状況（単位：億円）

	債権額	保全額	保全率
破産更生債権及びこれらに準ずる債権	101	101	100.0%
危険債権	267	213	79.8%
要管理債権	42	35	84.0%
合計	411	351	85.2%
正常債権	15,983		

保全額：担保等による保全額＋貸倒引当金